

セミの成虫のくらし

蛹にならずに成虫になる

セミは、長い幼虫時代を地中ですごします。地上に現れるのは、成虫の間の短い期間だけです。昆虫の中でも、チョウやハチなどは幼虫から蛹になり、成虫へと変わります。この過程を「完全変態」と言います。しかし、セミは蛹になることなく、幼虫から成虫に変わる「不完全変態」の昆虫です。成虫に変わる最後の脱皮のことを「羽化」と言います。

羽化して成虫になったセミは、交尾をして産卵します。現在では、成虫は3週間ほど生きると言われています。時には1カ月以上生きるとも珍しくないと考えられています。



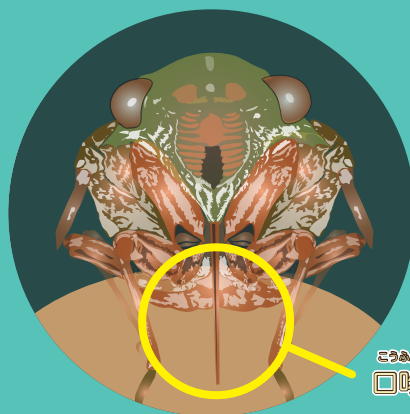
羽化した
アブラゼミ

鳴くのはオス・メスどっち？

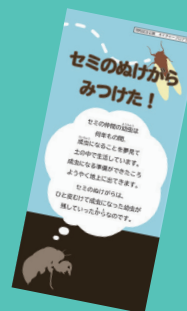
鳴くのはオスの成虫だけです。オスは大きな声で鳴き、自分の居場所をメスに知らせます。オスが鳴くのは、主にメスを呼ぶためです。メスは、鳴き声を頼りにオスのいる場所に近づきます。メスが近くに来ると、鳴き方を変えて交尾を誘う「交尾誘導音」を出す種もいます。鳥などに捕まった時の悲鳴の声も、出せるのはオスだけです。

食べものは液体

幼虫時代も成虫になってからも、セミの食べものは液体です。幼虫時代は、土の中で木の根から樹液を吸って育ちます。成虫になると、樹木の幹に、ストローのような細長い口吻を差しこんで樹液を吸います。幼虫にも口吻があるので、抜け殻を見つけたら観察してみてください。



抜け殻を見分けるヒントがわかる
セルフガイドもご用意しています



公園のきまり

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・立ち入ってもよい場所か確認して観察しましょう。



公園のセミを見にいこう

昭和記念公園には、6種のセミが生息していると言われています。

夏はセミの成虫を

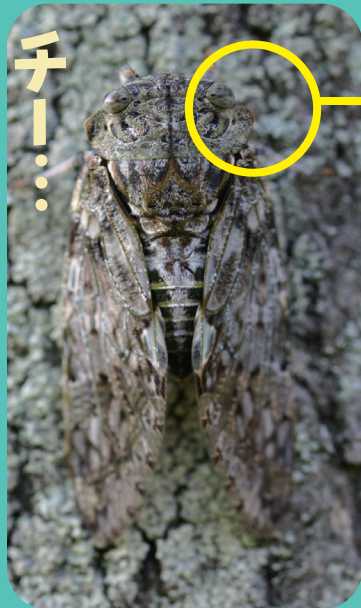
たくさん見られる季節です。

今日はセミを探しながら公園を歩いてみませんか。



公園でよく見かけるセミたち

日本には36種類のセミが生息しています。ここでは昭和記念公園で特によく見られる6種類をご紹介します。



ニイニイゼミ

左右の複眼の下は
三角形に出っ張る

時期：6月下旬～

8月下旬

全長：33～38mm

特徴：体は平らで、翅は
まだら模様
複眼は灰色がかる



クマゼミ

翅のつけ根の脈は
緑色が目立つ

時期：本土では7月上旬
～9月上旬

全長：61～68mm

特徴：黒くて大きな体と
透明な翅
主に午前中に鳴く



アブラゼミ

体は黒色～赤褐色

時期：7月中旬～

9月下旬

全長：53～58mm

特徴：黒や赤茶色の体
翅は全体的に茶
色で黄緑色の脈



ヒグラシ

オスとメスで腹部
の長さが違う
長い方がオス

時期：6月末～9月上旬

全長：42～50mm

特徴：日本特産種のセミ
腹部は茶色
主に朝夕の薄暗い
時間に鳴く



ツクツクボウシ

額が出っ張る

時期：7月中旬～9月

全長：40～45mm

特徴：腹部は黒っぽい
複眼は黒褐色
複雑で音楽的な
鳴き方をする



ミンミンゼミ

胸の背中側は緑の
地に王冠のような
黒い模様

時期：7月中旬～

9月中旬

全長：55～65mm

特徴：大型のセミ
腹部が短い
複眼は緑色